

# 牛久：学校周辺に見る自然

第6号 ひたち野うしく小学校

2018年5月20日発行

## ＜ 春のみずべ公園で生きもの観察 ～②花に来る虫たち・マメ科＞

ひたち野うしく小4年生と探した、みずべ公園の春の生きものたち。今回は、マメ科の花に来ていた虫たちを紹介（しょうかい）します。



蜜（みつ）や花粉（かふん）を求めてシロツメクサに集まるアカガネコハナバチ（左上）、ベニシジミ（右上）、コアオハナムグリ（下）。

まずは、シロツメクサ。鼻（はな）をよせると、バナナのようないい香（かおり）がします。蜜（みつ）も多いようで、アカガネコハナバチなどのハチや、ベニシジミなどのチョウ、コアオハナムグリが来ていました。

カラスノエンドウにも、ニッポンヒゲナガハナバチなどのハチがよく蜜（みつ）を吸いに来ます。花が

似（に）てないと思うかもしれませんが、シロツメクサの花の集まりをよ〜く見て下さい。その一つひとつは、カラスノエンドウと同じ形ですね。

色も大きさもちがいますが、やはり同じマメ科のなかまなのです。茎（くき）にはまっ黒なマメアブラムシがびっしり。汁（しる）を吸っているのです。

カラスノエンドウの蜜（みつ）を吸うニッポンヒゲナガハナバチのめす（左）と茎（くき）の汁（しる）を吸うマメアブラムシ（右）。

最後に、ムラサキツメクサ。同じヨーロッパ（げんさん）原産（げんさん）のシロツメクサに似（に）て集まる虫も

共（きょう）通（つう）ですが、葉（は）や茎（くき）に毛（け）があるなどよく見るとちがいがあ（あ）ります。【理科支援員：宮内】

ムラサキツメクサの葉（は）についていたナナホシテントウのさなぎ（左）と、蜜（みつ）を吸うシロスジヒゲナガハナバチのおす（右）。

